



授業研究（レッスン・スタディ）

校長 五十嵐 圭一

暦の上では2月4日が立春ですが、まだまだ寒い日が続いています。保護者、地域の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、教育界は今、大きな変革期を迎えていると言われていています。中学校においては、2021年度から新しい学習指導要領が全面実施となり、教科書も新しくなります。また、大学入試制度についても、センター試験が2019年度（2020年1月）の実施を最後に廃止され、これに代わり2020年度から「大学入学共通テスト」がスタートするなど、大きな改革が行われます。併せて、グローバル化の一層の進展、急激な情報化や技術革新など、社会全体も急激に変化していきます。このような変革期こそ、地に足の着いた教育を進めていきたいものです。学校教育においては、その中核となるのは、何といたっても日々の授業です。明日を担う本校の生徒たちに、時代の流れに対応しつつ、より質の高い授業を提供していくことが、私たちの最大の使命と考えています。



本校では1月下旬から、さいたま市教育委員会の指導主事を招き、授業の指導方法等についての研修を実施しています。1月21日(月)の保健体育の授業を皮切りに、本日2月1日(金)の理科の授業まで、9教科すべてにおいて、指導主事と本校教職員が参観する公開授業を行っています。授業終了後には、研究協議を行い、指導方法や評価・評定など、よりよい授業の在り方について研修を重ねています。

ところで、このように授業を皆で参観し、その後、指導方法等について協議するといった手法は、**授業研究**と言われ、教員の指導力を高める手法として本市のみならず日本ではごく当たり前に行われていますが、諸外国ではそうでもないようです。かつて、日本の教育の質の高さを維持する研修方法としてこのような授業研究の手法が、**レッスン・スタディ**という名称で、欧米諸国に紹介されたこともあります。



【研究協議】

昨年11月に実施した学校評価に関するアンケート調査において、「先生方が授業内容を分かるように指導してくれている」という設問に対し、肯定的な回答（AまたはB評価）をした生徒は、94%と概ね良好な結果でしたが、今後も**授業研究**を重ね、すべての生徒にとって、分かりやすく質の高い授業を実践していきたいと考えております。

平成30年度も残り2ヶ月余り、とりわけ2月は3年生にとって、2月28日(木)に行われる県公立高校学力検査に向けての大切な準備期間です。体調管理をしっかりと行い、目標の実現に向け全力を尽くしてほしいと思います。